

[教会に欠かせない四つの柱]

一つ目の柱：主の栄光のために生きる

●ペテロに対するパウロの抗議(cf. ガラテヤ 2:11-14)

「ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったので、私は面と向かって抗議しました。なぜなら、彼は、ある人々がヤコブのところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来ると、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったからです。そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といっしょに本心を偽った行動をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしまいました。しかし、彼らが福音の真理についてまっすぐに歩んでいないのを見て、私はみなの前でケパにこう言いました。「あなたは、自分がユダヤ人でありながらユダヤ人のようには生活せず、異邦人のように生活していたのに、どうして異邦人に対して、ユダヤ人の生活を強いるのですか。」

※使徒 10:11-15; 34-36

「見ると、天が開けており、大きな敷布のような入れ物が、四隅をつるさされて地上に降りて来た。その中には、地上のあらゆる種類の四つ足の動物や、はうもの、また、空の鳥などがいた。そして、彼に、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい」という声が聞こえた。しかしペテロは言った。「主よ。それはできません。私はまだ一度も、きよくない物や汚れた物を食べたことはありません。」すると、再び声があって、彼にこう言った。「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。」

「そこでペテロは、口を開いてこう言った。「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行う人なら、神に受け入れられるのです。神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」

○二つ目の柱：福音に生きるとは

1. 福音生活の_____ (27a)

2. 福音生活の_____ (27b)

※1 コリント 15:1-5

「兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおりに、三日目によみがえられたこと、また、ケパに現れ、それから十二弟子に現れたことです。」

※ローマ 3:23

「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、」

※ローマ 1:16

「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」

「福音がなければ、すべてが無益で空虚です。福音がなければ、私たちはキリスト者ではありません。福音がなければ、あらゆる富は貧しさに、あらゆる知恵は神の前で愚かさに、強さは弱さとなり、人の義はすべて神の御前で有罪と裁かれるのです。しかし、福音の知識によって、私たちは神の子どもとされ、イエス・キリストの兄弟とされ、聖徒たちと同じ町に住む者、天の御国の市民とされ、キリストとともに神の相続人とされます。キリストによって、貧しい者は富む者とされ、弱い者は強くされ、愚かな者は知恵ある者とされ、罪人は義とされ、孤独な者は慰められ、疑う者は確信を得、奴隷は自由とされます。これが信じるすべての人を救う神の力なのです。」(ジャン・カルヴァン)

※ピリピ 3:8

「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。」

3. 福音生活の_____ (27c)

※エペソ 4:1

「さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。」

※コロサイ 1:10

「また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。」

※1 テサロニケ 2:12

「ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。」

▶「生活しなさい」(*ポリス：「_____」)

「現代では、人が都市に住みながらも、その都市に何の愛着も抱かないということがあり得ます。…しかし、ギリシヤのポリスに住む市民にとって、それはあり得ないことでした。ポリスは人生そのものだったのです。都市の法律は彼らの一部であり、都市の慣習は誇りに思うものでした。彼らは都市の全てを熟知しており、住民のほとんど全てをも知っていました。都市は彼らに完全な忠誠を求め、彼らも喜んでそれに従いました。彼らにとって、ポリスは人生で最も価値あるものだったのです。」(ジェームズ・ボイス)

※使徒 16:20-21

「…この者たちはユダヤ人でありまして、私たちの町をかき乱し、ローマ人である私たちが、採用も実行もしてはならない風習を宣伝しております。」

※ピリピ 3:20

「けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。」